

平成 31 年 2 月 25 日

平成 30 年度東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書（項目 1～6）

1. プロジェクト名

東アジア美術データベースの構築と活用

2. 申請研究者

（氏名）（所属・役職）

板倉聖哲 東洋文化東アジア第 2

共同研究者

（氏名）（所属・役職）

塚本麿充 東洋文化東アジア第 2

呉孟晋 京都国立博物館学芸員

植松瑞希 東京国立博物館学芸員

西谷功 泉涌寺宝物館学芸員

高橋真作 東京国立博物館学芸員

3. 研究期間

平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日（3 年間の 3 年目）

4. プロジェクトの趣旨、全体計画（400 字程度）

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト、東アジア絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト、東アジア美術デジタル・アーカイヴ・プロジェクト、および小川裕充名誉教授が進めてきた資料整理プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指す。

『中国絵画総目録』3 篇の刊行完結を主たる目的として、さらにデータベースを充実させ、それらを活用して、新たな視点からの東アジア美術史を提示するように試みる。

5. 今年度の研究実施状況（400 字程度）

センターセミナーやシンポジウムは日本で開催されることが少ない重要テーマを選ぶことによって、斯学の研究者のみならず美術史学を専攻する大学院生に大きな刺激となっている。又、中国絵画のみならず、日本絵画の展覧会もふくみ、調査の成果を利用した展覧会が台北故宫博物院・神奈川県立金沢文庫・サントリー美術館など複数開催された。それによって一般の中国美術に対する関心が高まることに繋がるものと期待している。

6. 今年度の研究成果の概要（400 字程度）

『中国絵画総合図録』3 編の第 5 巻（日本巻）を刊行し、第 6 巻（索引）の刊行準備を行

った。第 5 巻については作品の頻繁な移動等に伴い所有者の意向の確認など対応に時間を要した。第 6 巻の入稿準備を行った。又、掲載は次回となるが、複数の国内コレクションの悉皆調査を継続的に行っている。

今年度、多視点から絵画史を捉え直すため、テキストとイメージの関係を主題にしたセンターシンポジウムを開催した。